

森林ボランティアが集う 苫東・和みの森

全国植樹祭記念の森

今年10月、北海道で33年ぶり2度目の全国育樹祭が開催されます。

皇族殿下によるお手入れ行事の会場となるのは、

13年前に全国植樹祭が行われた苫小牧市にある「苫東・和みの森」。

全国植樹祭記念の開催地は県などの公園として公的に管理される例が多い中、

ここでは市民ボランティアが中心となって森を育てる選択をしました。

苫東・和みの森の歩みと、森づくり活動の様子をご紹介します。



全国植樹祭と育樹祭。北海道開催は2度目

全国植樹祭は、昭和25年以来都道府県の持ち回りで毎春開催され、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手まきなどが行われます。昭和52年からはこの植樹祭開催地を会場に全国育樹祭の毎秋開催がスタート。両陛下お手植えの樹木を皇太子殿下がお手入れされ、世代で緑化を継承する象徴的な行事となっています。

北海道では、昭和36年に第12回全国植樹祭を苫小牧市・千歳市にまたがる支笏湖近くの国有林で開催。ここで昭和62年に第11回全国育樹祭のお手入れ行事が行われました。現在は「モーラップ部分林」として胆振総合振興局森林室が保育管理を担当しています。

平成19年には第58回全国植樹祭を、かつて薪炭林と湿地だった苫小牧市静川地区で開催。約5haの会場に48種類・約2万本が植樹されました。

第58回全国植樹祭の後、全国植樹祭記念の森推進委員会が、広大な森林の整備や利用の方法を検討。「意欲あるボランティアによる管理という手法に行き着きました」と苫東・和みの森運営協議会の副会長で、同協議会の事務局を置くNPO法人いぶり自然学校の上田融代表は振り返ります。同協議会は、ボランティアによる運営管理を具体化するため平成21年に設立されました。

平成19年の植樹祭の
開催地を生かして
「森のコミセン」誕生



開催地を「苦東・和みの森」と名付け、土地所有者の株式会社苦東と北海道、北海道森と緑の会、地元自治体の苦小牧市、森の利用者である市民ボランティアが構成する苦東・和みの森運営協議会で、森づくり計画を策定。目指すべき森の理想像を「森の「コミニティセンター」という言葉で表現しました。森という公共空間の中になり、出会いと気づきに満ち、誰もが集い関わ

り合える新しいコミュニティ拠点をイメージしています。

管理区画を活動領域の異なる4ゾーンに分け、子どもも高齢者も車いすユーザーも気軽に参加できる、遊びの要素たっぷりの各種プログラムを提供。参加し楽しむだけで自然と森づくりに貢献できるしくみで、ボランティアの意欲を生かす管理をかたちにしました。

ほぼ毎月の森づくり 活動の主人公は 多様なボランティア

メインとなる活動は、年9回、ほぼ毎月ベースで行っているイ

ベント「月に一度は森づくり！」です。大工とベンキ塗り、ハスクアップ狩り、アウトドアクッキン

グなど、毎回異なるプログラムを用意するほか、特定内容に絞り込んだ活動は毎回実施。除間伐材を薪にして錢湯などに届ける薪部、食材を持ち寄って鍋でのスープをつくるおやつ部、のこぎりやノミなどの道具を使って木工作を楽しむクラフト部、大人も参加できる「森のようちえん」の4つが、毎回恒例の活動となっています。過去には100名以上が参加した回もありました。

バラエティに富んだプログラムは、森への入口を広げるのが狙いです。その人らしい楽しみ方を見つけてもらえるよう、参加の仕方はとても緩やか。興味のある回だけ選んでも、部活動に加わらずただ森に来て遊ぶだけでも、好きなスタイルで参加できます。さらに、活動時間の10時～15時30分は出入り自由。誰もがいつでも森と触れ合えるよう配慮しています。

参加費は大人600円・子ども400円（材料費等は別途）で、会員になると割引があります。参加者の中心は小さな子どものいるファミリーですが、年齢層は1歳から80代までと幅広く、家族単位での交流も盛んです。

ムは、森への入口を広げるのが狙いです。その人らしい楽しみ方を見つけてもらえるよう、参加の仕方はとても緩やか。興味のある回だけ選んでも、部活動に加わらずただ森に来て遊ぶだけでも、好きなスタイルで参加できます。さらに、活動時間の10時～15時30分は出入り自由。誰もがいつでも森と触れ合えるよう配慮しています。



わたしたちの時代と違い、
今の子たちはなかなか自由に
外遊びができないので、
こういう場所での活動は
貴重な経験になりますね。
50代女性

小さな子ども連れに
居心地の良い空間。
楽しく遊んでいたら森づくりの
担い手になっていた……。
そんな活動です。
40代女性（会員から協会事務局へ）



初参加は子どもが幼稚園のころ。
人見知りだったのに森では活発で、
お友だちやお兄さんお姉さんと
遊ぶ姿をみて感動しました。
40代女性

月に一度は森づくり！
参加者の声

森林ボランティアが集う

苦東・和みの森

全国植樹祭記念の森

車いすユーザーも宿泊学習の学生も
多様な人々が集う森

最も人気のある活動は、毎年
キャンセル待ちが出るという小
学生対象の「子ども森づくり
キャンプ」。進級し勉強や習い事
で忙しくなってきた子どもたち
も、除間伐の達成感や、森の素材
で造った秘密基地で一泊するワ
クワク感を求めて、再び森へと
足を運んでくれるそうです。

長期にわたりコツコツと継続
された活動もあります。「月に一
度は森づくり!」の活動のひと
つとして行われた、車いすユ
ーザーのための木道づくりです。
開通後は障がいのあるなしにか
かわらず多くの人々が利用。木
道はバリアフリーの森を象徴す
るシンボルとなりました。



木道を通るときに、
車いすがガタガタ揺れるのが
おもしろかった!
小学生(車いすユーザー)

車いす木道
参加者の声

毎日通る安全で平らな道ではなく、
森では木道から外れて今まで知らなかった場所へ。
世界が広がるきっかけになりました。

40代男性(子どもが車いすユーザー)

森林ボランティアが集う
苦東・和みの森
全国植樹祭記念の森



薪が割れるのが
気持ちよかったです。
木が割れた後はいい匂い。
中学生

林業体験
プログラム
参加者

これだけ多くの人数が、見学だけでなく実際に木を切り、
薪割りをするというリアルな体験ができ、
大変うれしく思います。

中学校教諭



胆振森林サポーターの会 間伐

魅力的な活動を生むユニーク
な人材を引き寄せるのも、苦東・
和みの森の強みといえそうで
す。同協議会事務局勤務の八木
一馬さんは、苫小牧市の地域おこ
し協力隊員第1号。今年度は森
で馬を飼い始め、環境負荷の少
ない馬搬に挑戦しています。八
木さんの取組によって馬と一緒に
木を運ぶ楽しさが従来のプロ
グラムにプラスされ、参加者の
笑顔がさらに増えました。

植樹し育てた森での
ボランティアの思い

全国植樹祭で植栽された森林
の下刈りや除間伐作業は、当初19
の森林ボランティアの団体やN
PO法人が「全国植樹祭記念の
森づくりボランティア協定」を
締結して参加。木々が大きく生
長した現在も9団体が活躍して
います。

協定締結団体のひとつである
胆振森林サポーターの会は、平
成20年から5年ごとに協定を結
び、今年度は担当エリアの剪定
や下刈りを行いました。会
員の平均年齢は74歳、最年長93
歳ですが、森の中ではまだまだ
現役。13年前の全国植樹祭に参
加した会員もいます。「当地の植
樹祭に参加した会員たちと全国
植樹祭にかかることがあります」と同会の
市村聰子さん。今年の開催を機
に苦東・和みの森の認知度が上
がるよう願っています。

同協議会の大井正美代表も
イベント効果に期待する一人。
「植樹」に比べ「育樹」という言
葉はまだ一般的ではないと考え
「木を植えた後には下草刈りや
除間伐などやるべきことがたく

さんあると皆さんに知つてもら
い、持続可能な社会を目指す森
づくりボランティアが少しでも
増えてくれれば」と語ります。

「苦東・和みの森」に集う
仲間を募集しています

会員になると「月に一度は森づくり!」を
はじめとするプログラムに
会員価格で参加できます。

●年会費
正会員／個人1口500円、家族800円、
団体1口2,000円
賛助会員／個人1口3,000円、
団体1口10,000円

●お問い合わせ
苦東・和みの森運営協議会事務局
苫小牧市泉町1丁目5-6(いぶり自然学校内)
TEL.0144-82-7860
E-mail nagomi-no-mori@tw.drive-net.jp
<https://tomato-nagominomori.jmdofree.com/>